種名	サ カ ハ チ チ ョ ウ Araschnia burejana
分類	タテハチョウ科
形態	前翅長 20～25mm。次種よりたいてい大きい。季節型が見られ、春型は翅表の地色が黒褐色、後翅の亜色帯をもつ。裏面は赤褐色、黄色線が入り乱れた複雑な模様がある。夏型はイチモンジチョウ類おように、前･後翅表に白帯をもつ。♀は♂より翅型が丸く、春型は赤色部が発達する。夏型では白帯の幅が広い。
分布	北海道(利尻島･礼文島を含む)、本州、四国、九州。北海道では次種と混棲する。
出現期	普通年2回の発生。4～5月に春型が現れ、7～8月に夏型が見られる。暖地では9～10 月に第3回目が羽化する。寒冷地では7～8月に春型だけが、羽化する年もある。蛹で越冬する。
生態	やや山地性、樹林の周辺に棲む。細かくはばたき、路上や草に翅を開いてとまる。ウツギ類、ヒヨドリナバなどで吸蜜し、地上でよく吸水する。汚物･動物の死体で吸汁することもある。卵は食草の葉裏に、1個数個積み重ねて産まれる。
食樹	イラクサ科のコアカソ、メヤブマオ、エゾイラクサ、ホゾバイラクサなど。
幼虫 (幼生期)	体長25mm。若齢は数頭かたまっていることが多く、次種よりその数が少ない。終齢(5齢)になるとたいてい分散する。頭部に長い1対の突起があり、次種と区別できる。胴部にはたくさんの棘をもつ。地色は黒褐色のものから、黄色をおびるものまで変異がある。北海道では、同じ食草に次種と混じっていることがあるので注意が必要。

出現時期	(月)	―	―	―	4	5	6	7	8	9	10	―	―
その他													

参考文献：検索入門　渡辺康之著　チョウ